

地域漁業学会

会 報

【発行】

地域漁業学会 学会事務局
〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4
新共立ビル(株)共立(担当:地域漁業学会担当)
TEL: 03-3551-9896 FAX: 03-3553-2047
E-mail: jrfs@kyouritsu-online.co.jp
<https://jrfs.org/>

No.127

2025年1月

目 次

1. 第67回 熊本大会の開催にあたって (2025年11月7日～9日 於 熊本学園大学)
2. 学会賞授与 (奨励賞 崎田 誠志郎 会員、功労賞 山尾 政博 会員)
3. 第66回大会に参加して (岩崎 慎平 会員、及川 光 会員、穂積 謙吾 会員)
4. 報告論文の投稿について (第1回〆切2025年2月21日(金)、第2回〆切同3月21日(金))
5. 事務局からのお知らせ

※第66回大会・総会議事録(予算・決算・監査報告含む)は別紙参照

1. 第67回 熊本大会の開催にあたって

熊本大会実行委員長
波積 真理

第67回大会は2025年11月7日(金)、8日(土)、9日(日)に、熊本学園大学で開催いたします。熊本での開催は、1995年「西日本漁業経済学会」として開催されて以来2度目となります。今回は9日(日)にエクスカージョンとして「天草のイルカウォッチング」(自由参加)を計画しております。天草のイルカウォッチングは、イルカの遭遇率98%を誇っており、美しい海と相まって人気のアクティビティです。熊本の2大観光スポット天草の魅力を体感していただければと思います。現在熊本は、コロナ禍以後台湾を中心にインバウンドが急増しています。そのため、市内のホテルのご予約を早めにしていただければと存じます。熊本で皆様とお会いできますことを心より祈念いたしております。

2. 学会賞授与

学会賞選考委員会
委員長 山下 東子

(選考結果)

学会賞 該当者なし
奨励賞(中楯賞) 崎田 誠志郎 会員
功労賞(柿本賞) 山尾 政博 会員

会員からの推薦を受け、委員会にて慎重審議の結果、奨励賞(中楯賞)を崎田 誠志郎 会員、功労賞(柿本賞)を山尾 政博 会員に授与致しました。学会賞の該当者はございませんでした。

なお、現行の学会賞選考規程では、会員からの推薦がなければ選考にかけられないため、学会賞選考委員会が独自に推薦を挙げられるよう規定改訂を行うことを提案し、理事会・総会にて承認されました。

3. 第 66 回大会に参加して

(五十音順)

1) 岩崎 慎平 会員

福岡女子大学

地域漁業学会の大会に今回初めて参加させていただきました。私はこれまで水産分野においては汽水湖漁業のコモンズ研究や漁民の森づくり活動の整理、そして現在は日本・タイを中心としたアジアで展開するクラブバンク活動の実態と変遷についての研究を行っています。本大会では、タイのクラブバンクが組織化・普及化した要因について報告しました。もともと学会に入会する前から『地域漁業研究』や大会要旨集などで学会の情報を得て関心を抱いておりましたが、実際に大会に参加することで予想よりも多くの刺激を受けました。

私が参加した第 2 会場の研究発表では、発表者の約半数が留学生という国際色豊かなセッションでした。発表テーマも水産物流通、資源管理の変遷、資源管理の評価、政策評価など多岐にわたり、どの報告にもステークホルダーとの連携が重要な要素として共通している印象を持ちました。他のセッションにも気になる発表が多く、次回以降も参加したいという意欲が高まりました。今回発表で頂いたご意見を参考にしつつ、論文投稿に向けて努力してまいります。また、次回以降の大会でも口頭発表できるよう準備を進め、さらに共同研究の展開も視野に入れて、多くの会員の皆さまと交流していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2) 及川 光 会員

岩手県水産技術センター

今年度より地域漁業学会へ入会いたしました、岩手県水産技術センターに所属する及川光と申します。当センターは都道府県の水産試験場として

は珍しく経営経済研究の部署があり、私はそこで主に定置網漁業やワカメ養殖業の収益性向上に関する研究に取り組んでいるところです。

第 66 回大会への参加にあたっては、研究企画委員会の代表を務めていらっしゃる工藤貴史先生からシンポジウム報告のお話をいただいたため、「岩手県における主要魚種の変動と漁業協同組合の対応」をテーマとして発表させていただきました。シンポジウム報告は初めての経験だったため緊張しましたが、岩手県内の漁協が直面するサケ不漁や経営問題といった危機的な現状についてしっかり伝えることができたと考えています。また、総合討論およびシンポジウム後の懇親会では多くの質問やコメントをいただきました。この場をお借りしまして感謝申し上げます。さらに、翌日に開催された個別報告も日々の研究のヒントになるような内容が多く、有意義な時間を過ごすことができました。個人的に驚いた点は、多くの発表者が事前にレジュメを配布していたことです。聴講者へ自分の研究を伝える良い取り組みだと思いました。私も来年度以降、個別報告を行う際は参考にしたいと思います。

今回のシンポジウムテーマである海洋環境変動の深刻度は日ごとに増しており、岩手県においても悪影響が表面化しているところです。少しでも漁協や漁業者の抱える問題解決に貢献できるよう、波積会長をはじめとする会員の皆様の研究活動等を参考にしていきたいと思います。今後とも何卒よろしくようお願い申し上げます。

3) 穂積 謙吾 会員

早稲田大学教育・総合科学学術院

地域漁業学会第 66 回大会シンポジウムにて、「魚類養殖業における漁場環境変化への地域的対応—大分県佐伯市入津地区における赤潮を事例として」という題目にて報告させていただきました。報告では、養殖経営に係る諸制度や主体間の

連携といった「地域的な仕組み」が、赤潮の頻発する海域における魚類養殖業の維持に際して如何なる機能を果たしているのかを論じてまいりました。

「地域性、学際性、国際性」を柱とした学会であることから、シンポジウムの打ち合わせをはじめ、当日、さらにはその後の懇親会においてまで、フィールドや研究領域を異にする皆様と交流でき、大変刺激かつ充実した大会であったことと存じております。私の依拠している学問である地理学も、様々な地域の実態を様々な角度から描き出すこと、あるいは、様々な自然・社会・経済的な現象に対して個別の諸地域の事例を基に理解を深めることを旨としています。このような地理学の本旨と、地域漁業学会の掲げる「地域性、学際性、国際性」は非常に親和的であることから、今後の学会活動において自らの学びを一層深化できるように思え、活気が湧いてまいる所存でございます。

まだまだ浅学非才の身ではございますが、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

4. 報告論文の投稿について

学会誌編集委員会
委員長 竹ノ内 徳人

学会誌編集委員会では今期の学会誌について65巻1号～3号として3冊を発行予定です。個別報告については第1回〆切が2025年2月21日（金）、第2回〆切が2025年3月21日（金）です。また過去3年のうち当学会で報告し、なおかつ論文投稿されていない原稿についても引き続き投稿をお願いいたします。

5. 事務局からのお知らせ

1) 会報の電子化について

第66期総会において、会報の電子化が承認され、今後は封書による会報郵送から電子メールによるpdf添付となります。

2) 会員情報の登録と更新のお願い

メールアドレスや住所の変更等は、本学会HPで更新できます。(https://jrfs.org/nyukai.html)

不明な点がございましたら、ホームページ上の問い合わせメールを活用ください。

3) 会費納入のお願い

第66期（2024年10月～2025年9月）会費の請求書（過年度分未納の場合含む）を送付しております。お早めの納入にご協力のほどお願いいたします。

【問い合わせ先】

事務局：天野、林、眞次、前田

jrfs@kyouritsu-online.co.jp（◎を@に変換して下さい）

地域漁業学会 <https://jrfs.org/>

本部事務局 株式会社共立内

〒104-0033 東京都中央区新川2-22-4 新共立ビル (株)共立内

(担当：地域漁業学会) TEL: 03-3551-9896 FAX: 03-3553-2047

郵便振替：01750-0-83886

銀行振込：三菱UFJ銀行 新富町支店 普通 0146078